

祝 辞

理事長 柳谷 孝

新入生の皆さん、このたびはご入学、誠におめでとうございます。また、これまで新入生を支えてこられたご家族やご列席の皆様に対しましても、心よりお慶びを申し上げます。

明治大学は、1881年に志高き20代後半の3人の若者により創立されました。当時の日本は、封建社会であった江戸時代が終焉し、社会構造が大きく変化した激動の時代でありました。西欧諸国をモデルにした日本の近代化が急務である中、フランス法を学んだ岸本辰雄先生、宮城浩蔵先生、矢代操先生が、近代化に不可欠である法学を日本に普及させ、新しい世を作らんと学校を設立しました。それが明治法律学校であり、現在の明治大学であります。本学は、2021年に創立140周年を迎え、これまで約62万人の卒業生を輩出しましたが、開校当時の熱き想いは「権利自由」「独立自治」の建学の精神として、現在まで脈々と受け継がれています。明治大学の校歌には、そうした建学の精神や気風が溢れていますので、是非皆さんも歌い継いでください。

ところで、皆さんがこれから歩む人生は大海原での航海に例えることができるでしょう。航海では、風向きや潮の流れは絶えず変化します。穏やかな日もあれば、時には激しい嵐に遭遇し、これまで経験したことのない海域へ進まなければならないこともあります。そのなかで大切なことは、航海の基本をしっかりと身に付け、変化する風にあわせて的確に帆を操り、航路を修正しながら目的地へと進み続けることです。人生もまた同様に、確かな土台を築いたうえで、変化に柔軟に対応していくことが重要となります。

翻って現代社会に目を向けますと、航海における風と同じように、かつてないほど変化が激しい時代を迎えています。生成AIをはじめとするデジタル技術の急速な普及は、仕事や学び、コミュニケーションのあり方を大きく変えました。また、地政学リスクの高まりや人口構造の変化、気候変動問題などにより、社会そのものも大きな転換期にあります。こうした時代においては、一度身に付けた知識や技術だけで生涯活躍し続けることは困難です。AIをはじめとする新時代の風をしっかりと受け止め、新しい知識を学び続け、変化に応じて自らを成長させていく力が必要です。近年重要視されている「ガバナンス」という言葉がありますが、その語源はギリシャ語で「船の舵を取ること」を意味します。変化の激しい時代だからこそ、組織や私たちの人生においても進むべき方向を見定め、確かな舵取りを行うことが求められているのです。

ただし、新しいものだけを追い求めれば良いというものでもありません。そこで皆さんに、「不易流行」という言葉をご紹介します。「不易」とは、どれほど社会が変わろうとも、変えてはならないものです。一方、「流行」とは、時代の変化を柔軟に受け入れ、新しい価値を学び、取り入れていくことを意味します。自分の中に確かな「不易」がないまま変化だけを追い求めれば、その時々風に流され、進むべき方向を見失ってしまいます。反対に「不易」に固執して変化を拒めば、新しい可能性を切り拓くことはできません。航海に例えるならば、航海の基本が「不易」、風を読んで帆を操る柔軟さが「流行」です。だからこそ、「不易」と「流行」の調和こそが、これからの時代を生き抜くために欠かせないのです。

明治大学には、多様な教育プログラムに加え、全国そして全世界から、年齢も国籍も異なる学生が集まっています。新入生の皆様におかれましては、その環境を存分に活用いただき、これから始まる大学生活の中で、「不易」と「流行」の双方を学び、その調和の中から揺るぎない「個」を育んでもらいたいと願っています。そのことが、皆さんがこれからの時代を力強く歩んでいくための確かな土台となり、大きな飛躍を支える財産となることでしょう。皆さんの前途は、大きく開かれています。本学において揺るぎない「個」を磨き、予測困難な時代にあっても、自らの航路を力強く切り拓いていっていただくことを期待しております。

明治大学もまた、「権利自由」「独立自治」という変わらぬ建学の精神のもと、2031年に迎える創立 150 周年、そしてその先の未来に向けて輝き続けていくために挑戦を重ね、皆さんの「前へ」の歩みを後押ししてまいります。

結びになりますが、ここに皆さんのご入学を心よりお祝い申し上げますとともに、明治大学における学生生活が実り多いものとなりますことを祈念し、祝辞といたします。